

たより

『美紗の会』 ニユース

第32号

平成十一年八月二十日

発行者 「美紗の会」
03-3441-2726
編集責任者 大久保 朋子

好色六十九代女を終えて

西松 布咏

四月のある晩、元藤燐子さんから「布咏さんの三味線で何か踊りたいのですが」という電話をいただいた。

数年前に土方巽の舞踏のビデオや大野一雄・慶人氏の舞台を観て感動したことがある。先日セゾン劇場で、山海塾の「ひびき」を観て肉体の表現と音楽の見事な融合にうっとりとしてすっかり舞踏に魅せられていたので「是非お願いします」と即答してしまっ

た。とはいえ、いったい何をどうやって共演したらよいのか、とまどうばかりで時は過ぎてゆく。しかし、企画・演出を依頼されたジョン・ソルト氏は、「元藤さんは好色一代女をやるしかないです」と決めた。とたん分厚い原本を早速本屋に注文し、四部構成の英語の脚本が、あつと言う間に出来上がってきた。

第一場、老婆の告白から始まり、まさに身体を武器に体当たりで生きてきた女の男遍歴の物語。数十年前深夜TVで田中絹代主演の「西鶴好色一代女」をひとり観た時の衝撃を思い出した。まだうまい美しい美しい女が様々に男に

翻弄され、やがて年老いて、ついにはむしろ手に夜鷹にまで身をくずしてゆくという救いのないストーリーは、まだ、どう生きていこうかという子羊の乙女(この私にとっては)ずしりと重い映画だったのだ。

そのテーマに三味線音楽は、まさにぴったりだったが、どんな曲を使ったら良いか迷っているうちにリハサルが近くなる。西鶴をひもといてゆくと、かつてインディアナ大学で開催された「江戸セクシユアリティ学会」を思い出した。江戸時代は大人のおもちゃ箱をひっくり返したような浮世だったことを。そう言

えばソルト氏は、「好色一代男の研究」でハーバード大学の修士号を取得したアメリカ版世之介みたいな人。元藤さんは、母と同じような世代なのにエネルギーで童女のようなお人柄で「私、お金をもたらして男と付き合った」とないからどんな風にこの女を表現したらよいか、一生懸命研究しまーす!と明るく言っているのける女優の卵みたくキラキラしている。

大道具の若手の鈴木君は、夜中にトンカンと大工をして舞台装置をつくり、リハサルの時は見事な遊廓をスタジオに再現し皆をびつくりさせる。

若い研究生は鳥原の遊女役でビチビチした肉体を大きくくねらせる。

寺山修司の天井桟敷に在籍していた高田恵篤さんは、軽妙な語りと女を翻弄させる男で大活躍!

未知の世界に飛び込みとまどっていた私もいつしか皆のエネルギーに囲まれて、たった一人でオーケストラを指揮する気分になってきた。深夜までのリハサルを何度か繰り返して、本番前夜ソルト氏が「昔、芸人はお客に観せるためではなく神に拝げるために唄い踊ったのです。明日はそういう気持ちで楽しくやりましょう」と励ましてくれた。六月二十七日は嵐のような日曜日だった。狭いスタジオは暑さと湿気と人いざで異様な雰囲気だった。一美女は男の命を断つ斧。西鶴の好色一代女は、現代版好色六十九代女になって第一場の老女の告

白も「わたし江戸のプロレタリアート」になって生き生きと描かれる。

第二場の鳥原の巻は、男を迷わせる絶世の美女になって「夜毎あなたを夢見るので淋しい日は夢なのです」というケネス・レックスロスの芸者の詩や、小唄・歌沢でエロチックなシーンがいっぱい!

第三場は、したたかな女になって「男達をいかせるから私は菩薩なんだって」と遊女稼業にも磨きがかかる。第四場はごで身をまとった夜鷹となった老女が「恍惚の花が咲くのも一瞬のこと」とかつて若く美しかった昔を回想して果てしなく踊る。そしてついに菩薩となって男達に運ばれ黄泉の国へと旅立ってゆく。

舞踏の創始者である土方巽記念アスベスト館での公演はこうして好評裡のうちに終わった。

わが美紗の会の傳田さんは「舞台からゴキブリが這い出てきた時、土方さんが出てきたって思いましたよ」と言ってくれた。

ソルト氏は最後のあいさつで「ここで舞踏は生まれませんでした。天国の土方さんが喜んで下されば嬉しいですよ」と語った。

アスベスト館鑑賞記

ヤリタミサコ

あまりに、今日のアスベスト館が素敵だったので、FAXします。

元藤さんの存在が西松さんの声に、ソルトがたつぷりかかると、この世とも思えぬ日常を脱してあの世へ行っちゃうようなお味のお料理でした。

第二場でのオーガズムや、高田さんの右手の指の動きなど、あまりに性欲を直撃するので、会場の室内温度が三度くらい、一気に上昇しました。

女性客たちの性感を刺激したことは確実です。一緒に行ったら、友人も、下半身が熱くなると言っていました。若い男達に運ばれ黄泉の国へと旅立ってゆく。

私は、二回泣けちゃいました。一回目は、最初の登場。むしろのかがり元藤さんが登場したとき、童女の眼をしていました。ジーンときちゃいました。もう一回は、顔に阿弥陀仏、と書かれたところ。なんとも、心の中の深いところにある、ユングのいう集合意識みたいな、自分だけの個別の記憶ではなく、遠いところで自分の前世か、はたまた先祖の記憶か、そのような遠い記憶が刺激されて、呼び覚まされたようでした。もちろん、そこで、聞こえた、西松さんの「南無阿弥陀仏」の音声は、もう、西松さんの発する声ではなく、天上から響い

てくる、賛美歌のようでした。西松さんに「南無阿弥陀仏」と言っておくってもらえたら、天国へ行くはずの死者も現世にまだ未練を残し、地獄へ行くはずの死者も現世と天国に迷い込みそうです。かなわぬ冗談を言わせてもらえば、私の葬式には、西松さんの南無阿弥陀仏の声を流してもらえたらなあ、と思ったくらいです。

元藤さんの足の美しいこと、能面の、また、紗の布をかぶった美しさうまさは、もちろんのこと、小道具、舞台装置の確で効果的なこと、すべてにうなるほど計算されていて、観客の私は、とても上手にだまされた喜びを味わいました。西松さんの唄も、最初は、いい声とか、うまいなあ、とか思っていたけど、だんだんに舞台と元藤さんと一体となってきて、もう、どこから聞こえるか、どんなコトバか、なんて関係なくなるほど、一体となっていたように思います。私は、アスベスト館を出たら、現実に戻るのがタイヘンでした。サイフが見つからなくなったり、お金の計算が一時的にできなくなり、このあいだのアイラのビデオとか、感覚を深いところで刺激されると、そうやってしまいます。これからはぜひ、刺激的なことを待っています。

ごあいさつ

嘉本範男

私儀本年五月末の総会をもちまして(社)日本貨物検査協会常務理事を退任いたしました。

氏の推薦のお陰で三井船舶に入社する事が出来ました。

気持ちで一杯です。有り難うございました。

四十三年の星霜の間に、新入社員として最初の赴任地である門司からスタートし、乗船勤務、東京、カラカス、東京、札幌、神戸、大阪、東京、大阪、東京と勤務地を変わりました。

私が入社後お世話になりました海運会社、港運会社、協会いずれも大変厳しい経営環境の下にあり、一言でいえば、ずっと合理化への挑戦であったと思います。

しかし、我が国経済の基幹の一翼を担う産業にかかわり、それぞれの勤務地では楽しく仕事が出来ましたし、杯を酌み交わし、新しい愛情をたくさん育む事が出来ました。私にとつて悔いのない四十二年間を送ることが出来、本当に幸せでした。限らない感謝の

来し方を少し振り返りますと、一九三四年に父の勤務地であった台湾の澎湖島馬公にて生を受け、日支事変後に神戸に引き揚げ塩屋にて学生時代を過ごしました。六甲の大学では勉強よりも野球の球拾いに励んでおりました。卒業後はスポーツ記者、放送記者を夢見ておりましたが、試験に失敗しました。しかし、野球の縁から東京六大学で活躍した東大の名投手、故由良敏

リイライフからカジユアルラ イフへ変わるとは、大きな喜びであります。一方ではセルフコントロールを懸念しております。健康な肉体を与えてくれた両親と、健康維持に配慮してくれた家族に感謝し、これからの余生を少しでも社会に恩返しが出来よう

にボランティア活動に参加すると共に、出来る限り地球を歩き、生きる喜び、生きる目的を探求できれば最高の幸せと考えております。

今後とも従前同様の指導とご交誼を賜りますよう切にお願ひ申し上げます。

まずは、自由人の仲間入りをするに当たり、御礼かたがたご挨拶申し上げます。

九月十五日(水) 龍名館本店「龍の間」一時開演

九月十八日(土) 九月十九日(日) 九月二十日(日) 九月二十一日(日) 九月二十二日(日) 九月二十三日(日) 九月二十四日(日) 九月二十五日(日) 九月二十六日(日) 九月二十七日(日) 九月二十八日(日) 九月二十九日(日) 九月三十日(日)

江藤淳の自決

本郷 公基

評論家 江藤淳の自決は、私にとって、日頃の彼の菌切

われる程、仲のよい夫婦で愛妻家であった故奥様の死が彼の自決の一因とも云われていることにある種の感慨を覚えている。

「正論」は共感を覚えることが多く、これからもこの国のあり方に対し、辛口の主張を続け、日本をリードしてほしいと考えていただけに残念である。

会社生活もあとわずかとになるとその後の人生をどう生きるかについて考える。(そしてどうしたら美しく、さわやかに死んで行けるかを考える)

その彼が「一卵性夫婦」と云

私はいつか童話を一つ書きます。

「ソルト」と共演

十一月六日(土) 鳩山会館 六時―七時半演奏

七時半―八時半カクテルパーティ

第二回にゆあんすの会

田中優子・千羽理芳・元藤燁子・逆瀬川健治をゲストに迎えて

「伝統は妄想なのか?」を企画 主演

十一月十九日(金) 深川江戸資料館

高木美智子 語りの会にゲスト出演

今後の予定

九月十五日(水) 龍名館本店「龍の間」一時開演

九月十八日(土) 九月十九日(日) 九月二十日(日) 九月二十一日(日) 九月二十二日(日) 九月二十三日(日) 九月二十四日(日) 九月二十五日(日) 九月二十六日(日) 九月二十七日(日) 九月二十八日(日) 九月二十九日(日) 九月三十日(日)

九月十八日(土) 九月十九日(日) 九月二十日(日) 九月二十一日(日) 九月二十二日(日) 九月二十三日(日) 九月二十四日(日) 九月二十五日(日) 九月二十六日(日) 九月二十七日(日) 九月二十八日(日) 九月二十九日(日) 九月三十日(日)

九月十八日(土) 九月十九日(日) 九月二十日(日) 九月二十一日(日) 九月二十二日(日) 九月二十三日(日) 九月二十四日(日) 九月二十五日(日) 九月二十六日(日) 九月二十七日(日) 九月二十八日(日) 九月二十九日(日) 九月三十日(日)

九月十八日(土) 九月十九日(日) 九月二十日(日) 九月二十一日(日) 九月二十二日(日) 九月二十三日(日) 九月二十四日(日) 九月二十五日(日) 九月二十六日(日) 九月二十七日(日) 九月二十八日(日) 九月二十九日(日) 九月三十日(日)

九月十八日(土) 九月十九日(日) 九月二十日(日) 九月二十一日(日) 九月二十二日(日) 九月二十三日(日) 九月二十四日(日) 九月二十五日(日) 九月二十六日(日) 九月二十七日(日) 九月二十八日(日) 九月二十九日(日) 九月三十日(日)

九月十八日(土) 九月十九日(日) 九月二十日(日) 九月二十一日(日) 九月二十二日(日) 九月二十三日(日) 九月二十四日(日) 九月二十五日(日) 九月二十六日(日) 九月二十七日(日) 九月二十八日(日) 九月二十九日(日) 九月三十日(日)